

2017 年度前期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—法学部—

法学部長 鋤本豊博

授業評価の目的は、授業の質を高めて教育の改善を図ることにあり、各教員はアンケート結果を授業改善につながる資料として活用することが期待されている。しかし、結果の数値を正確に受け止め、これに還元できないものまでも読みとって具体的な授業改善に繋げることは至難である。

今年度（前期）の特徴は、全体的に前年度に比べ平均値の増加が見られたことである。「総合的にこの授業を評価できる」という設問 12 では、平均値が「4.29→4.37」と有意的に上昇したほか、特に「予習または復習をよくした」という設問 14 がここ数年下降傾向（3.28→3.24→3.13）にあり、由々しきことと重く受け止めていただけに、「3.40」と一気に上昇したことで少し安堵している。引き続き「学生を本気モードにさせる仕組み」を授業内に構築して戴ければと思う。

一方、「休講または教員の遅刻が多かった」という設問 4 が、「4.17→3.98」と平均値を下げたことは残念である。これは教員だけの問題であるから、改善を促そうと考えている。